

価値創造の歩みと現在

— 技術と人で未来を拓く、azbilグループのDNA

「人間の苦役からの解放」

理念「人を中心としたオートメーション」に息づく
創業者の想い



創業者 山口武彦

アズビルの前身である山武商会が創業されたのは明治末期の1906(明治39)年です。当時の日本の工業社会は、欧米の進んだ工業製品を取り入れて近代化を進めようとする黎明期でした。欧米から帰国した山口武彦は、先進技術によって「日本の勤労者を過重な労働から解放したい」という志を具現化するため、欧米機械工具の輸入商社「山武商会」を設立しました。その後、最先端の欧米の工作機械類、ボールベアリング、酸素溶接機等の輸入販売等をしながら、自社でも計測・制御の技術を磨き、総合オートメーションメーカーへと進化していきました。

TOPICS



1906(明治39)年、山武商会(アズビルの祖)を創業。欧米機械工具の輸入販売を開始。広いショーウィンドウには機械工具が陳列され、目立つ存在となりました。



1915(大正4)年、当時はまだ珍しい自動車を購入して営業活動で使用。これも進取の精神の表れ。

技術の力で人々の幸福と社会の発展に貢献する。

それが、創業者山口武彦から連綿とおよそ120年にわたって受け継がれてきたazbilグループの原点であり、DNAです。

グループ理念

人を中心としたオートメーション

私たちは、「人を中心としたオートメーション」で、
人々の「安心、快適、達成感」を実現するとともに、地球環境に貢献します。

そのために

- ・私たちは、お客さまとともに、現場で価値を創ります。
- ・私たちは、「人を中心とした」の発想で、私たちらしさを追求します。
- ・私たちは、未来を考え、革新的に行動します。

azbil

azbilの意味: **automation・zone・builder**

オートメーション(automation)の技術によって、
グループ理念のキーワードである安心・快適・達成感のある場(zone)を
実現(build)することを表しています。

理念制定当時は「人」と「機械」は別々のものということが一般的で、
互いにあまりなじまないものと、周囲からの理解は必ずしも深くありませんでした。
しかし、近年の様々な社会・環境の変化で「人と技術の協創」という概念が世の中にも受け入れられ、
「人を中心としたオートメーション」という発想で進めてきた事業の展開を多くの方々にご理解・ご支持いただけるようになりました。
私たちのオートメーションは、環境保全や省エネルギーなどの社会的な価値観とも調和した技術として発展を続けています。



1933(昭和8)年、山武商會計器製作所を設置。米国ブラウン社(後のハネウェル社)製品の国内組立を開始。輸入商社からメーカーへの進化を開始。1936(昭和11)年日本初の自動調節弁国産化に成功



写真左:
山武商會計器製作所(東京都大田区大森)

写真右:
ブラウン社製品 1935(昭和10)年
国内組立第1回完成品

オートメーション事業で人と社会の持続可能性を支える、azbilグループ約120年の進化と変革

1906年、山口武彦により創立されたアズビルは創業精神の「人間を苦役から解放する」を原点に社会とお客様の課題を解決するべく、一世紀以上にわたり計測と制御に関わる製品とサービスを提供し続けてきました。

時代が変わっても創業の精神は私たちの中にDNAとして息づいています。創業の精神からつながるグループ理念「人を中心としたオートメーション」に基づき、常に、産業・社会、そしてお客様が直面する課題を解決するための新しい価値の創造に取り組んでいます。

1906

欧米工作機械類の輸入商社として山武商会を設立



創業者 山口武彦

1936

日本初の自動調節弁国産化に成功



▶ 製造業に不可欠な計測制御機器を国産化。日本の近代化、戦後の製造業の発展に貢献

1966

社名を山武ハネウエル株式会社に變更

1984

遠隔監視による総合ビル管理サービスBOSS-24™を開始

▶ 1980年代から通信を活用したビジネスを展開、半世紀にわたる実績



1994

当社100%出資による本格的な海外生産会社を中国に設立

1995

オープンな小規模計装システム協調オートメーションシステムHarmonas™販売開始



1985

次世代調節弁CV3000を開発



1982

ビル総合管理システムSAVIC™を独自開発

1964

ケージ型調節弁を世界で初めて商品化

1975

米国ハネウエル社と分散形総合制御システムTDCS™2000を共同開発



独自開発の矩形波励磁方式を世界で初めて採用した電磁流量計MagneW™を販売開始



1933

工作機械および計器の製造販売を行うメーカーへと変身

1953

米国有数の制御機器メーカーである米国ハネウエル社と戦後初の50対50の資本提携(～1990年)

1913

十文字式平円盤型翼車型水道メーターを製造



時代背景と社会課題解決の歴史

沿革

azbilの提供価値

社会のニーズ・業界動向

1906年 — 1950年代

1906年に山武商会を創業。ドイツより工作機械の輸入販売を始め、その後、米国のブラウン社(後のハネウエル社)の工作機械・計器の製造販売メーカーに転身。新素材産業の発展に伴い工業計器を普及させ、戦後は日本の復興・重工業の発展に貢献。

工業計器の輸入から機器の自主開発・国産化

日本の近代化に向けて、欧米の先進技術の導入が喫緊の課題。さらなる工業化、発展のために、輸入に依存していた工業計器の国産化への要望拡大

1950 — 1970年代

1952年に米国ハネウエル社と技術導入提携契約を結び、同社の持つ空調制御技術や燃焼安全制御技術、マイクロスイッチなどを日本に導入。独自技術による革新的な電気式小型計器や、大規模建物に対応した中央監視システムなどを普及させ、総合オートメーションメーカーとして高度成長期を支えました。

オートメーションによる高度経済成長への貢献

高度成長期を迎え、各種製造業において技術革新を伴う大型化・近代化投資が進み、計測やエンジニアリングの需要が増大

2023

アズビルと X1Studio 株式会社が業務提携

- ▶ 生成 AI・クラウドサービスの普及による国内外でのデータセンター需要の拡大に対応

2021

セル型空調システムネクスフォート™DD 販売開始

- ▶ ニューノーマル時代の働き方やオフィス利用の多様化に対応



ESP(Energy Service Provider) 事業の展開を拡大

- ▶ 省エネルギーに加えて、他社との協業(再生可能エネルギー)により、脱炭素化のニーズに応えるソリューションを拡大

2018

BAシステム savic-net™G5 販売開始

- ▶ ウェルネスを含め、建物環境の進化ニーズにお応えするオープンでフレキシブルなシステムを提供



2020

Dx Valve Cloud Service 販売開始

- ▶ プラントや工場の生産設備の安全・安定操業に貢献



2016

オンライン異常予兆検知システム Big EYES™ 販売開始

- ▶ 製造現場の DX を加速 設備の安定運転や品質不良対策等、実務レベルの課題に貢献

2012

社名を アズビル株式会社に変更

国内 azbil グループ各社の社名を「アズビル」を冠するものに変更

2014

北米に初の技術開発会社を設立

2006

グループシンボル導入



2008

グループ名称を azbil グループに変更

2009

海外 azbil グループ各社の社名を「アズビル」を冠するものに変更

制御弁と計測機能を一体化したバルブ流量計測制御機能付電動二方弁 ACTIVAL™ 販売開始



1998

社名を 株式会社山武に変更

2001

ベルギーにヨーロッパ初の現地法人を設立

1999

マイクロフローセンサ™を搭載した気体用マスフローメータ販売開始

- ▶ 社会・お客様の新たなニーズにお応えするために MEMS 技術を活用



1970 — 2000年代

石油危機を契機にあらゆる産業の省エネルギー化・省人化が進むなか、企業理念として様々な分野での「省」(=save)の実現、地球環境への貢献を明確に打ち出す。高機能・高精度の工業計器ニーズに対応した各種製品や、通信技術を活用したビルの総合管理サービスなどを展開。

省エネルギー、高機能・高精度化ニーズの高まりに対応、デジタル計装への変革

1970年代の石油危機以来、省エネルギー化・省人化が進展。さらに工業機器のデジタル計装化、計測制御システムの高度計装化やソフトウェアへの需要が拡大

2000 — 現在

オートメーションで人々の「安心、快適、達成感」を実現するという進化したグループ理念の下、ネットワーク技術の進展とともに、AI、ビッグデータといった様々な技術革新に対応した製品やソリューションを各分野で展開。グローバルでのお客様や社会の課題解決と持続的な発展を目指す。

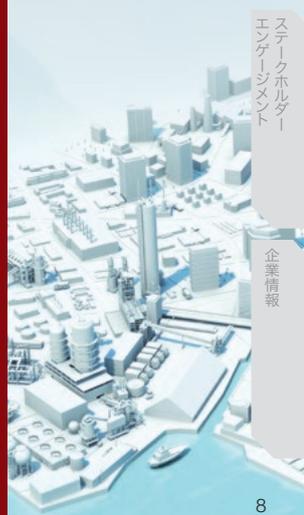
増大する社会的ニーズへの対応と持続可能な社会へ「直列」に繋がるソリューションを提供

インターネットの世界的な普及、グローバル化が進行。反面、人口、エネルギー、地球温暖化等の問題も顕在化。持続可能な地球環境創出のため、オートメーションに求められる役割が拡大

現在 —

3つの事業で産業と社会にサステナブルな提案を

→ p9 社会の中の azbilグループ



社会の中のazbilグループ

日々の生活に安心・快適・豊かさを。
産業と社会にサステナブルな提案を。

AI/Big Data

IoT
(Internet of Things)

工場
• 半導体
• 電気・電子
• 自動車
• 食品
• 薬品 等

ごみ処理・上下水道

研究所

プラント
• 石油化学・化学
• 石油精製
• 電力・ガス
• 鉄鋼 等

ショッピングセンター

提供価値

アドバンスオートメーション事業
プラント・工場で

→ p43

様々な製造現場での課題解決に、オートメーション技術は欠かせません。例えばプラントでは、高機能センサを用いて機器や設備の状況をオンラインで診断、さらに操業ビッグデータを活用し設備の正常な状態をAIで学習、異常予兆を早期発見するなど安全な操業に貢献しています。また半導体製造装置等のコンポーネントとして高度なセンシング技術が最先端の半導体製造に貢献しています。



オートメーションを産業と暮らしのために

オートメーションとは、温度や圧力など様々な対象を「計測」して最適な状態にするために「制御」を行うことです。私たち azbilグループは、このオートメーション技術を核に、IoTやAI、ビッグデータ、クラウドといった技術革新を取り入れて、オフィスやプラント・工場、人々の暮らしに展開。産業の発展や日々の生活を支えています。

提供価値

ライフオートメーション事業

暮らしの中で → p45

私たちのオートメーション技術は、ガス・水道等のライフライン、住宅の空調システム、医薬品の製造装置にも活用され、安全・安心な暮らし、健康で快適な生活を支えています。例えば、ライフラインの分野では、通信機能を搭載したメーターによる検針業務の自動化等に加えて、電気・ガス・水道のデータを掛け合わせて新たな価値を創造するサービスSMaaS™ (Smart Metering as a Service)への取組みを進めています。



ライフサイエンス
(医薬品製造装置)

住宅

ライフライン
(都市ガス・LPガス、水道)

オフィスビル

Cloud

学校

病院

データセンター

ホテル

提供価値

ビルディングオートメーション事業

オフィスビル・大型建物で → p41

オフィスビルやホテル、ショッピングセンターなど、多くの大型建物で私たちの空調制御技術が使われています。温度や湿度等をきめ細かく計測して、快適で省エネルギーになるよう、設備や機器を制御しています。現在は、快適性・省エネルギーに加えて感染症や働き方の多様化やウェルネスへの対応、クラウドやIoT技術を用いて、多くの建物の電力需要を調整するVPP(Virtual Power Plant)やESP(Energy Service Provider)事業等、azbilグループの空調制御に求められる役割も大きく拡大しています。

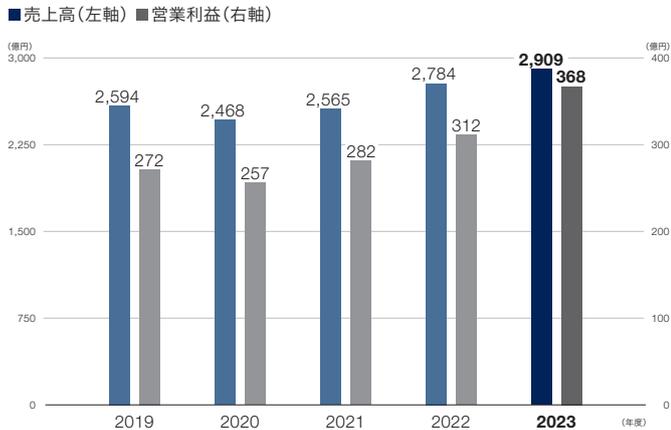


財務・非財務ハイライト

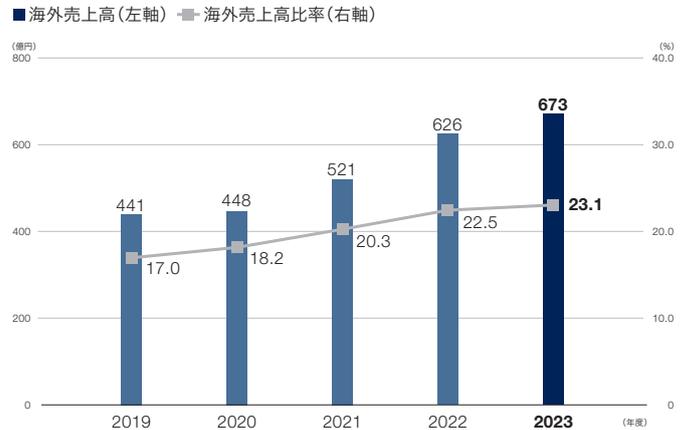
アズビル株式会社および連結子会社

財務ハイライト

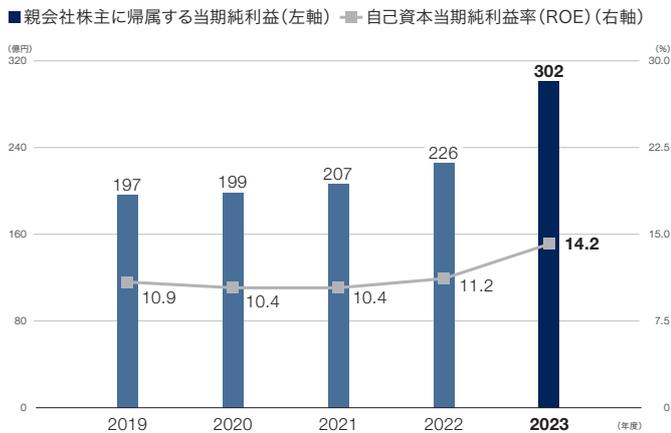
売上高／営業利益



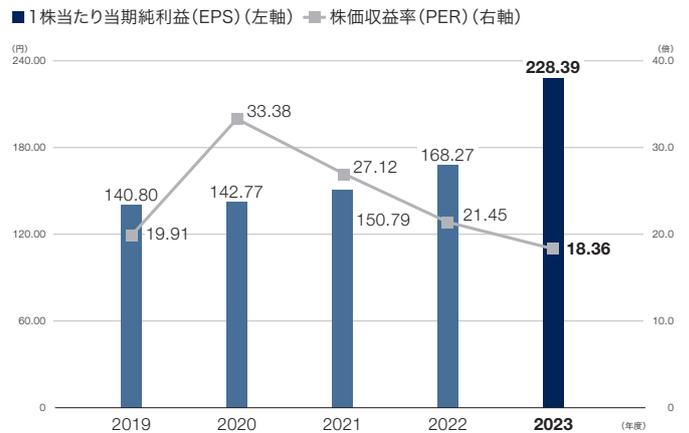
海外売上高／海外売上高比率



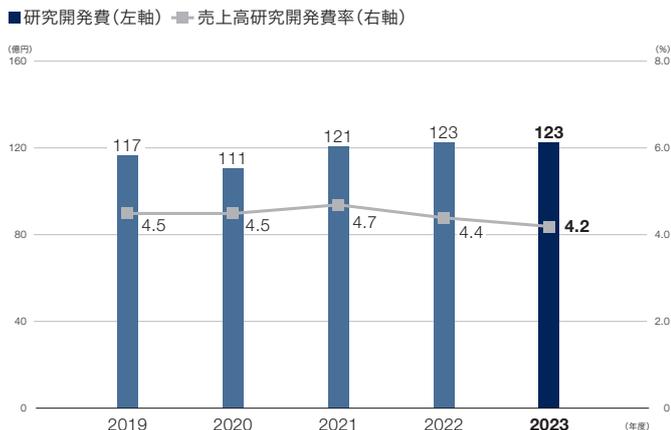
親会社株主に帰属する当期純利益／自己資本当期純利益率(ROE)



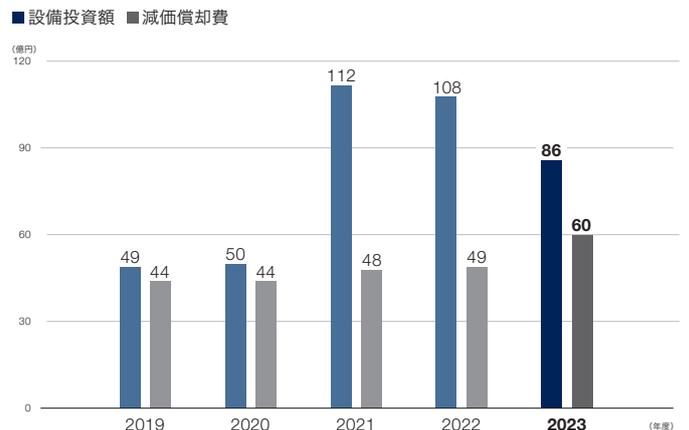
1株当たり当期純利益(EPS)／株価収益率(PER)



研究開発費／売上高研究開発費率

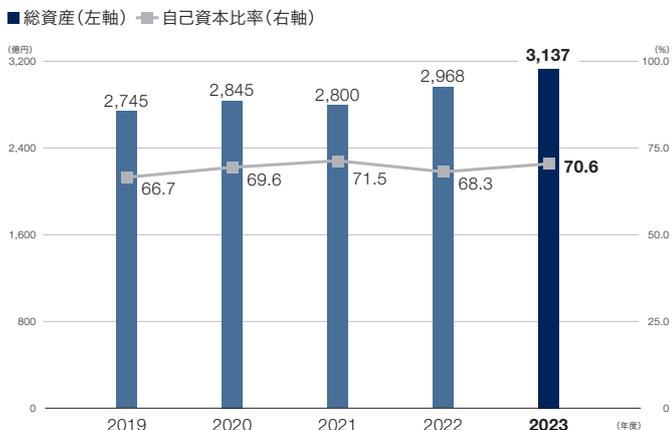


設備投資額／減価償却費

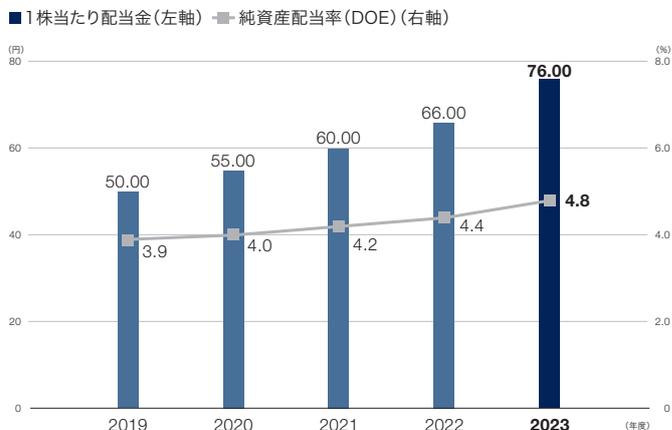


※ 2021・2022年度は、藤沢テクノセンター機能強化に関する設備投資が増加しています。

総資産／自己資本比率



1株当たり配当金／純資産配当率(DOE)

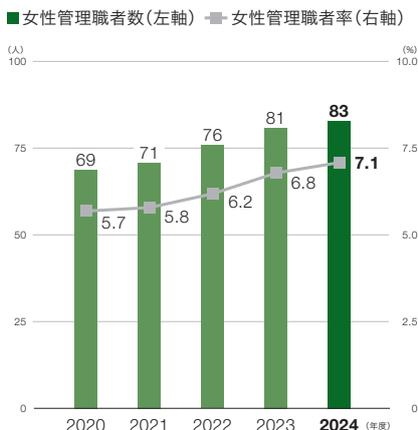


非財務ハイライト

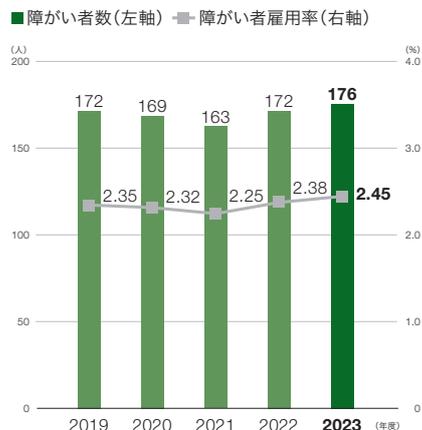
連結従業員数



女性管理職者数／女性管理職者率 (アズビル株式会社 4月1日現在)

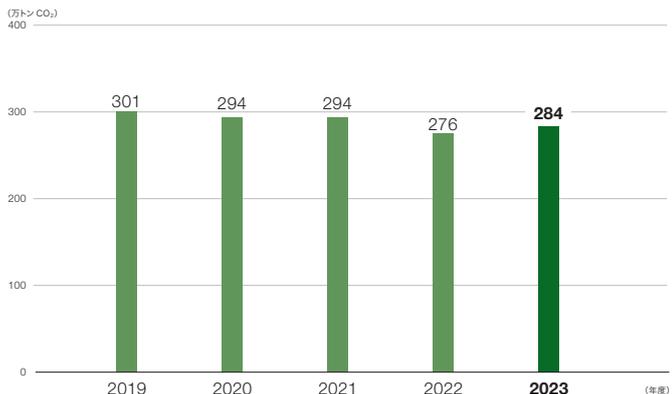


障がい者数／障がい者雇用率



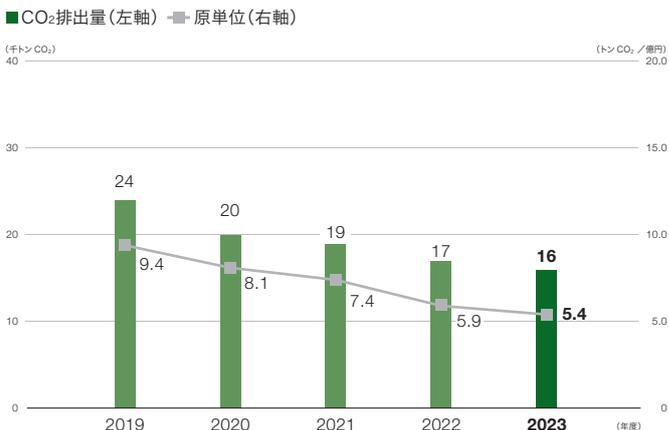
お客様の現場におけるCO₂削減効果

アズビル株式会社および海外現地法人



CO₂排出量(スコープ1+2)／原単位

アズビル株式会社、国内連結子会社および海外主要生産拠点



※ 推計手法につきましては、第三者レビューを実施しています。

※ CO₂排出量はMktベースでの算定値です。